

2013 Internationalen Automobil Ausstellung

## 第65回 フランクフルト・モーターショー

プレミアム・スポーツの競演と普及を迫るEV/PHV

解説・藤本 彰

### 依然として世界に冠たるドイツ

2013年9月10日から22日までフランクフルト・アムメイン市の見本市会場で世界最大の自動車の祭典が開催された。前評判どおりの話題豊富なショーだったが、紙数が限られているのでここではプレミアム・スポーツとエコ先進モデル中心に紹介する。諸元その他の詳細は各社のウェブサイトでご確認頂きたい。

メディアデイ初日、トップを切ったBMWは前回同様にデモ用のコースを設営して新作のすべてを走らせて見せた。中でも7月29日にニューヨーク、ロンドン、北京で同時オンライン発表された市販EV“i3”は広い会場内の移動用シャトルにも数台提供されていて並んで順番待ちの盛況だった。

BMWのもう1台の話題作はi8。プラグイン・ハイブリッドのクリーンディーゼル・スポーツ・コンセプトである。特徴的なボディ・グラフィックスは完成度を上げ、新世代エコスポーツカーとして期待は大きい。

盟主ダイムラー最大の話題作はコンセプトSクラスクーペ。4663ccのガソリンV8を5050mmのボディ

に搭載するフラッグシップ。5月に発売されたS500では自律運転システムを実験中であり、いずれこのクーペにも搭載されると見られている。自律運転システムについてゼツチェ会長は2020年までに商品化の可能性を匂わせていて、これは日産の予定と合致する。2012年9月、包括的提携を発表したダイムラーとルノー／日産アライアンスはEV関連の他にも何種かのプラットフォームの共用化を現在進めている。

いまやドイツ・プレミアムカーメーカーの一角を占めるアウディは、特設パヴィリオン“Agora”で館内を大都会のビルの林のイメージで装い、広いステージでは20名ものダンサーたちによるパフォーマンスで報道陣をもてなした。話題作は「クロスオーバー・スーパークーペ」とも言うべきカテゴリのナヌーク・クワトロ・PHVコンセプト(Nanuk=イヌイット語で北極熊)。ポップアップ・ドアをもつボディのデザインはイタルデザイン・ジュジャーロ。このほか通常のスイングドアをもつスポーツ・クワトロ・コンセプト(次期R8)、A8、A3キャブリアレなども披露された。



BMW i8



BMW i3



Mercedes-Benz Concept S-Class



Porsche 918 Spyder Hybrid concept

業績好調のポルシェは918スパイダーを出展。驚異の低燃費が特徴のこのプレミアム・ハイブリッドは918台限定で発売される予定。外から見られることを意識したインテリアが印象的。

ドイツ最大のカーメーカー、フォルクスワーゲン(VW)の話題作は量産型EV "e-up!"とe-ゴルフ。スタイリングはi3ほどの先進性がないが、このメーカーが取り組むとEV時代間近の印象を与える。ドイツの量産車メーカーは超小型コミューターよりも実用的な小型車をEV化するほうがビジネスにも適切と判断したようだ。VWはこのほかに次世代ゴルフ・プラスとしてスポーツバン・コンセプトを発表した。

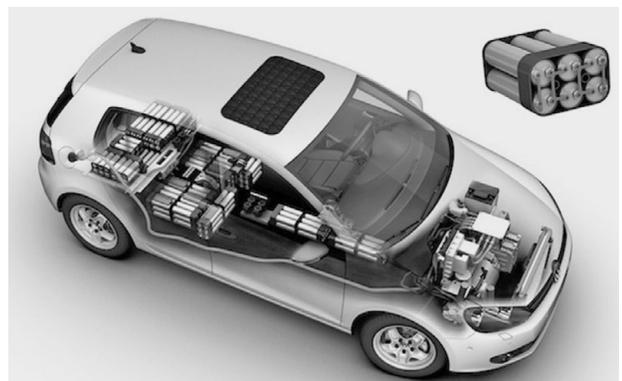
2009年に親会社GMに見放されそうだったオペルは再びGMの小型車部門の一翼を担い、ブラジルやオーストラリア、中国、イスラエルなどで稼いでいる。今回はコンセプトカーに昔の名前 "Monza"の名を冠して流麗なスポーツクーペを提案した。また量産車では最上級セダンのインシグニアにスポーティなワゴンが追加された。

欧州フォードは手堅く主力ミニバン "S-MAX"の次期型をコンセプト・モデルとして公表した。さらに上級セダン/ワゴン、新型モンデオ“ヴィニャーレ”を展示していた。

### 欧州他国も元気

ドイツ車以外で注目度の高い作品はボルボのコンセプト・クーペ。1960年から74年まで販売されたP1800へのオマージュだという。デザインは現在VWのデザイン部長を務めるトーマス・インゲンラートがボルボに入って初めての作品とか。スウェーデン・デザイン基調と主張するインテリアはクールで質感が高い。今後のボルボのデザイン言語を示唆するもの。

ジャガーのC-X17コンセプトは初のクロスオーバーSUV。軽量化技術を盛り込んだ次世代のためのモジュラーシステムが組み込まれた新しい車体構造というが、SUVとしてのスタイリングは平凡。2012年にはベントレーもこの分野への参入を表明している。ロールスロイスもSUV市場を検討中であることをこのショーで明ら



VW e-Golf



Audi Nanuk Quattro Coupe concept



VW e-up!



Opel Monza concept



Jaguar c-x17 concept

かにした。プレミアム・ブランド製品にこだわる人たちにとっては幸せな選択肢か。

フェラーリは458シリーズの最新版“スペチアーレ”コンセプトを披露。2009年のフランクフルトで発表されたピニンファリーナ・デザインの“イタリア”をさらに磨き上げて軽量化と出力向上をはかっている。

ルノーはラグジュアリーなミニバン“イニシャル・パリ”

コンセプトを公開した。エスパスの次世代である。世界的にデザイン・トレンドが頭打ちの傾向を示すなかにあつて、ルノーは独自のデザイン言語を確立しつつある。

プジョーは208ハイブリッドFEコンセプトと308Rコンセプトを出展、Cセグメント市場への意欲を見せたが、スタイリングはおとなしくなった。いっぽうシトロエンはハイブリッド・エアシステムを搭載するユニークなデザインのスUV“カクタス”(サボテン)コンセプトを披露、注目された。燃費33km/h。

アメリカ勢での注目はGMキャディラック・エルミラージュ・コンセプト。8月のペブルビーチ・コンクール・デレガンスで公開され好評だった。



Ford S-Max concept



Ford Mondeo Vignale concept



Ferrari 458 Speciale



Volvo Concept Coupe



Concept Renault Initiale Paris



Peugeot 208 FE concept



Toyota Yaris Hybrid R concept

## 日本勢はいかに

トヨタがフランクフルトに持ち込んだのはヤリス(日本ではヴィッツ) ハイブリッドRコンセプト。1.6ℓエンジンと2基のモーター合計で420psを搾り出すというハイパフォーマンス・エコスポーツである。

一方レクサスは派手な顔つきのクロスオーバーSUV "LF-NX"を初公開した。強いキャラクターラインは若いユーザーを取り込む意図だろうか。

ニッサンはX-Trailの次期型を初公開、14年7月から発売する。現行モデルの直線基調のボディは“デュアリス”テイストに大変身。さらにコンセプトカーとして上海で公開された定員4人の豪華なセダン"Friend-Me"をIAAに持ち込んだ。中国の80年代生まれの若者をターゲットの車という設定だったが、中国ではさほど気にならなかった抑揚の強い面作りがここドイツで

眺めると相当に違和感を覚える。

インフィニティは初のCセグメント・モデル"Q30"を提案した。オーガニック基調のキャラクターラインの強いプレミアム・コンパクト。2015年には市販される見込みだ。

ホンダは欧州専用のワゴン、シビック・トゥアラーを出展、14年には発売されるという。またアキュラは1月



Lexus LF-NX concept



Citroën Concept C4 Cactus



New Nissan X-Trail



Cadillac Elmiraj concept



Nissan "Friend Me" concept



Infiniti Q30 concept



New Mazda 3 Sedan

のデトロイト、8月のペブルビーチにも出展されたハイブリッド4WDのNSXを披露した。

マツダは新型3シリーズ(日本名アクセラ)を展示、三菱はメーカーとしての出展はなく、スバルはWRXコンセプトで次期インプレッサのデザインを示唆した。

スズキはコンパクトSUVコンセプト"iV-4"を出展。これをベースとした量産車を2015年から欧州向けに市販の予定であることを明らかにした。

韓国・ヒョンデーはコンパクト・セダン"i10"の次世代車を、キアは"Niro"(ニーロ)コンセプトの1.6ℓエンジンとモーターによるハイブリッドを出展した。虎の顔をイメージした「タイガーノーズ」はまだ認知度が低い。中国からは長安汽車の出展があったが、市場を得ていないため本格的なものではなかった。



Subaru WR-X concept



Suzuki iV-4 concept



Honda Civic Tourer concept



Hyundai i10 concept



Acura NSX concept



Kia Niro concept